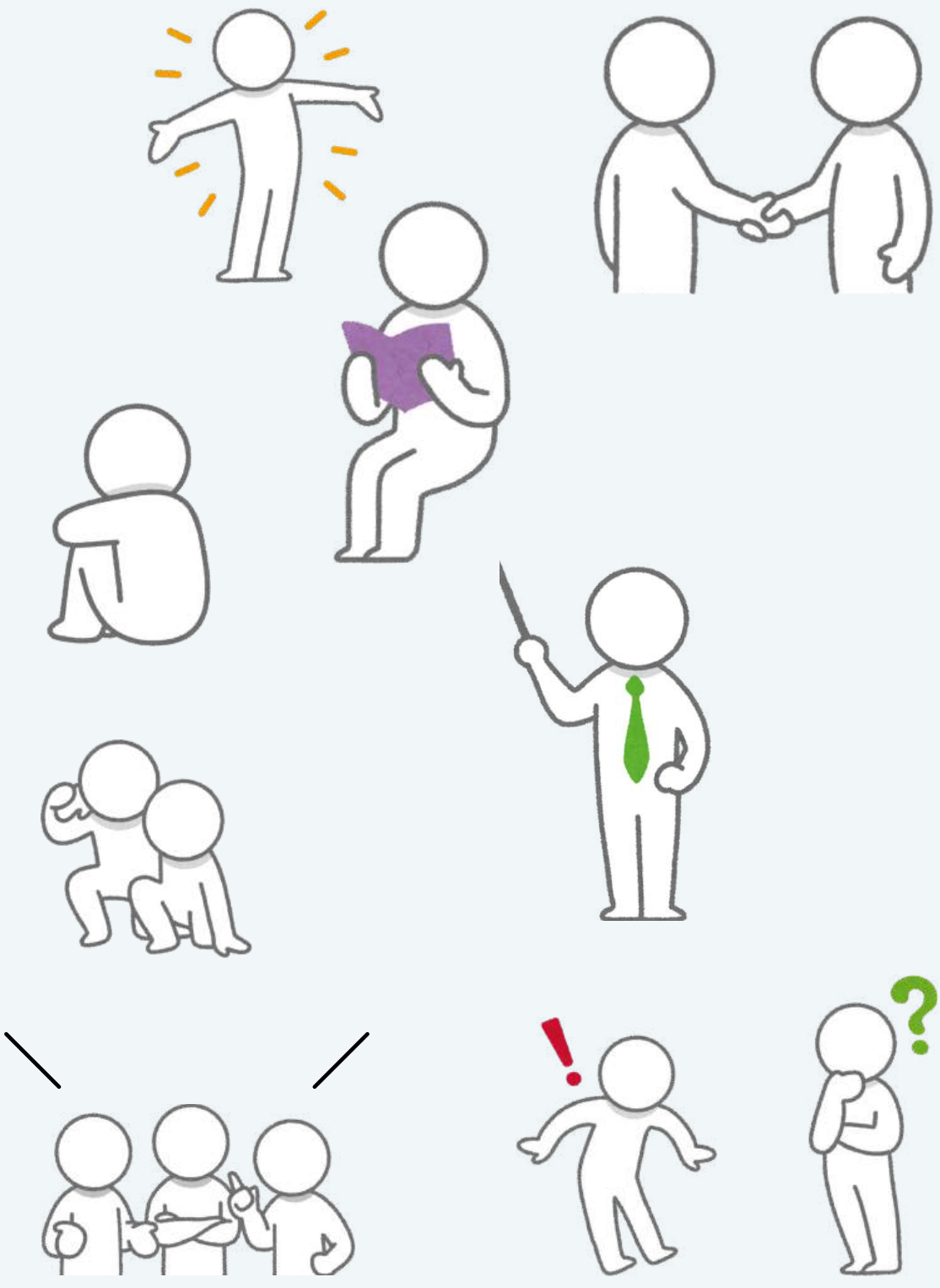
自由進度学習を始めよう

個別最適な学びと協働的な学び

ってナニ？



幸せな子ども時代のために

もくじ

第１章　自由進度学習とは

①私たちには力がある。そして、一人ひとりちがう
②今、学校の学び方が変わってきている
③自由進度学習の授業って、どんな感じ？
④３つのチャレンジをしよう！
⑤うまくいくポイントは「振り返り」です

第２章　自由進度学習の準備

①「自分から学ぶ」心をもつ
②学びの地図「単元進度表」の例１　算数
③学びの地図「単元進度表」の例２　算数
④学びの地図「単元進度表」の例３　家庭科
⑤温かい関係をつくろう
⑥先生の役割（ファシリテーター）



第３章　自由進度学習のおすすめ・自由進度学習におすすめ

①自由進度学習で学んだ先輩の声に学ぼう
②はじめの一歩は算数がおすすめです
③毎日読書を楽しもう
④自由進度学習×ICTは相性がいい
⑤ホワイトボード・ミーティング®でファシリテーターになろう
⑥やってみよう！サークル対話（イエナプラン教育）

参考文献など

この冊子は、「自由進度学習」という授業の考え方や取り組み方について伝えたい内容をまとめています。学校の先生や児童・生徒のみなさんに読んでいただけたら嬉しいです。わからない言葉は調べてください。

みんなで声（こえ）に出（だ）して読（よ）んでみてね

1 私たちには力がある。そして一人ひとりちがう



私たちは一人ひとりが力をもつ存在です。そして、たくさんの可能性にあふれています。あなたにも、私にも力や可能性があります。

例えば、友だちにステキな言葉を送ると、友だちは幸せな気持ちになります。私たちには言葉を通して人を幸せにする力があるのです。

自分が好きなことを続ける力
勉強やスポーツに取りくむ力
ひとりで、がんばる力
友だちと、協力する力
楽しく遊ぶ力　などなど

ほかにも、いろんな力がありそうですね。

そして、私たちは一人ひとりが大切な存在です。そして、一人ひとりが、全くちがう人です。好きな食べ物やスポーツ、強みや性格、考え方、ものごとのとらえ方が一人ひとりちがうように、「自分に合った学び方」も、きっと一人ひとりちがいます。このちがいが尊重されるといい。このちがいを楽しめるといい。

そんなふうに思いませんか。

令和５年４月にスタートした「こども基本法」の基本理念には、すべてのこどもは大事に育てられ、生活か守られ、愛され、保護される権利が守られ、平等に教育を受けられることが謳われています。

2 今、学校の学び方が変わってきている



これまで長い間、学校の多くの授業は、こんな学び方で進められてきました。

□１先生の説明を、みんなで聞く
□２意見のある人が手をあげて発表する
□３自分でノートやプリントにまとめる

授業で一番、長く話すのは先生で、私たちは、その話を静かに聞くことが大事とされてきました。もちろんそれも大事です。

でも今、時代の変化に合わせて、学び方のシフトチェンジ（変化）が始まっています。これからは、一人ひとりが学びの主人公として主体的に学びに取り組み、対話をしながら学びを深めていきます。

そのひとつが自由進度学習です。

自由進度学習は学習をする**子どもが中心**の授業の進め方です。一人ひとりが「学びのコントローラー」をもって、自分の学習を計画しながら進めます。うまくいったら先に進んでもいいし、わからなければ後ろにもどってもいい。自分に合った進度で学習がわかること、楽しいことを大切する学び方です。

自由進度学習は愛知県の東浦町立緒川小学校で始まった学習スタイルです。現在は、全国に取り組む学校やクラスがあります。「学びのコントローラー」は埼玉県の小学校で発明された言葉です。自分で問いを立てて学び続ける「探究的な学び」の入り口でもあります。

3 自由進度学習の授業って、どんな感じ？



自由進度学習の授業では、みんなが自分のペースで学べます。わからないところはゆっくり時間をかけて進み、得意なところはどんどん進めます。

教室には、勉強に役立つ資料や教材があって、先生も必要なアドバイスをしてくれます。わからないところがあればすぐに先生に聞けて、友達と協力することもできます。みんながそれぞれの目標に向かって、自分に合ったやり方で学んでいく授業です。

自由進度学習では、先生の役割が変わります。先生は一人ひとりの進み方に合わせてアドバイスをくれる「学びのナビゲーター」となります。また、みんなが安心して学べる教室を作り、好きなペースで学べる環境を整えます。

例えば、子どもたちが必要なことは声をあげます。「数え棒がほしい」「ホワイトボードがほしい」など。そして学習環境を一緒につくっていきます。先生は、必要な本やオンラインの教材を準備してくれたり、勉強のやり方についてアドバイスをしてくれます。そして、がんばったことや、次に工夫できることを「フィードバック」で教えてくれます。

先生は「教える人」ではなく、みんなの学びをサポートする「伴走者」として寄り添ってくれるのです。

生成AIなどの科学技術の発展などを背景に急速に社会が変化する中で、知識だけではなく創造性や問題解決力を育む授業が求められています。タブレットやパソコンの活用や対話や議論をしながら教室の内外でつながって探究的に学ぶ。そんな学び方を身につけることが大切とされています。

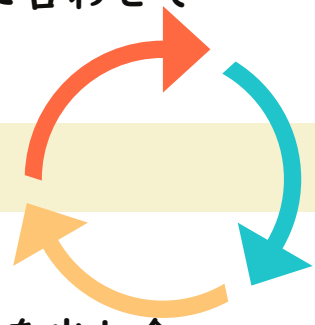
4 ３つのチャレンジをしよう！

自由進度学習で大切にしている考え方は、次の２つです。個別最適な学びと協働的な学びはグルグルとまわりながら進みます。



個別最適な学び

自分のペースやスタイルに合わせて学ぶ。学び方を探究する



協働的な学び

友だちと意見やアイデアを出し合って、協力して学びを広げたり深めて問題を解決する



＼ドキドキワクワクの／
３つのチャレンジ！を大切にします

- □１　自分の学びを広げ、深めるチャレンジ
- □２　友達関係を広げ、深めるチャレンジ
- □３　クラスの関係を広げ、学びを深めるチャレンジ

現在の日本の学校では「予測困難な時代」「正解のない時代」を生きていく力を養う上で、「個別最適な学び」や「協働的な学び」は、不可欠な学びだとされています。自由進度学習は、それらを実現する授業の進め方のひとつです。クラスみんなで「３つのチャレンジ」に取り組もう！

5 うまくいくポイントは「振り返り」です



自由進度学習がうまくいくポイントはズバリ「振り返り」です。

「なん問できた？」
「なん点だった？」　　だけではなく

「なぜ、できたのだろうか」
「なぜ、できなかったのだろうか」

と、自分で振り返りながら学習を進めます。つまり、自分で自分の学びを分析するのです。友達と一緒に学び合えば、お互いに分析し合ったりもできます。

もちろん、振り返りがうまくいかないこともあります。そういう時は様々に工夫をします。目標や計画がうまく立てれないこともあります。でも、慣れてくると振り返りのサイクルがまわり始めて、だんだんと学び方の工夫がわかるようになります。そうなってくると学びが「ビュン！」と加速します。

こんなふうに自分で決めて、自分で学びを進めていくのが自由進度学習です。先生は黒板の前にいません。司会もしません。何をするのか細かく指示もしません。でも、いつでも相談できます。
自分で学習計画を立て、精一杯学んで、振り返り、１歩ずつレベルアップしましょう。

振り返りがうまくなるためのおすすめは「振り返りジャーナル」です。うまくいった時もそうでない時も、やりっぱなしにせず振り返ることで、明日につながる大切な学びを得ることができます。３つのチャレンジを振り返るのもおすすめです。

1 「自分から学ぶ心」をもつ

何よりも必要な準備は「心がまえです」。これまでとは学び方が変わります。先生が全てを準備したり、授業の進度を決めたりはしません。だから、自分の心がまえ（マインドセット）が大切になります。

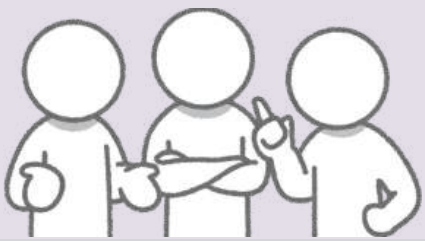


学び方

- □１ 自分でゴールと学習計画を立てます
- □２ 自分のペースで学びを進めます
- □３ 友達と一緒に協力して取り組みます
- □４ 学習を振り返ります
- □５ 振り返りを次に活かしてアップデート

心構え

- □１授業を「自ら学び、成長していく場」にしよう
- □２「なぜ？」「どうして？」の、好奇心の種をたくさん見つけよう
- □３ 好奇心の種を大切に育て続けよう
- □４「まあこれくらいでいっか」で終わらない。粘り強く学び続けるのだ
- □５ 先生を待っていてはいけない。自分で学習環境を整えよう
- □６ 誰かに合わせるのではなく、自分の進めたい進度で進めるぞー！
- □７ 一緒に学びたい時や、困った時は友達と声をかけあうのだ
- □８ 「ごめんね。ひとりでやりたいの」と言われたら「了解！」です
- □９ 失敗・間違いOKOK。成功からも失敗からも学ぶのだ
- □10 振り返りながらアップデートしよう





そんな気持ちになれない時もあるある。 OK！OK!
だいじょうぶ。だいじょうぶ。

自由進度学習には、様々なスタイルがあります。例えば、授業の最初10分や途中20分を自由進度学習にするスタイルや、単元10時間のうちの数時間や単元全部の時間を自由進度学習にするスタイルもあります。国語と社会の授業を組み合わせるなどの教科融合で進めるスタイルもあります。

2 学びの地図「単元進度表」の例１　算数

＜はじまりのインストラクション＞

全11時間のうち、４時間まで「みんなで一緒に」学んできました。「算数の武器の使い方」は身につけたかな？ 忘れた人は、何度でも学び直していいですからね。忘れたことを覚え直すことは大切な勉強のプロセスです。

さて、今日から（５時間目）は、身に付けた武器を使って、それぞれが自分の学びを進めていきますよ。学習進行表をもとに、自らの学びを進めていきましょう。計画シートを出しましょう。さあ、学びを始めましょう。

	小見出し 理解したいキーワード	学習活動・教科書	☆評価 ※予習復習用コンテンツ
1	平均値	みんなと先生で p88,89,90の問題から学び、考える	イーボード →○○○（リンク） すきるまドリル →○○○（リンク） ドリルパーク →○○○（リンク）
2	ドットプロット 最ひん値・中央値 代表値	みんなと先生で p91,92の問題から学び、考える	
3	度数分布表 階級 度数	みんなと先生で p93の問題から学び、考える	
4	柱状グラフ	みんなと先生で p94の問題から学び、考える	
5～11 活用 探求	学んだことをいかそう 学びをつなげよう やってみよう	□ p95,96,97 「つながるミカタ」に取り組む →先生へ ※まなびリンク「ドットツール（2）」「柱状グラフツール（2）」を活用 □ p98,99「いろいろなグラフ」に取り組む →▷3に取り組む時は先生を呼んでね □ p100,101,102,103を参考にして「身の回りのデータ」を活用して、結論をまとめよう。 →こちらのリンクを参考に、取り組んでみよう。	☆様々な観点からデータを分析し、その結果を根拠に結論をまとめることができる ☆柱状グラフが用いられる場面や見方について理解している ☆身の回りの事象について、目的に応じて、統計的な問題解決の方法で考察している。
5～11 理解 習熟	学んだ内容を理解しよう 確実に身に付けよう	□ p104,105に取り組み、学習内容の理解を確認し、身に付けられるよう勉強しよう。 □ ステップアップ算数p253,254に取り組み、学習内容の理解を確認し、身に付けられるよう勉強しよう。	

＜振り返りのインストラクション＞

さて、今日の学びを振り返りましょう。今日の授業中、あなたに密着カメラが潜入して、あなたを撮影していたとイメージしてください。

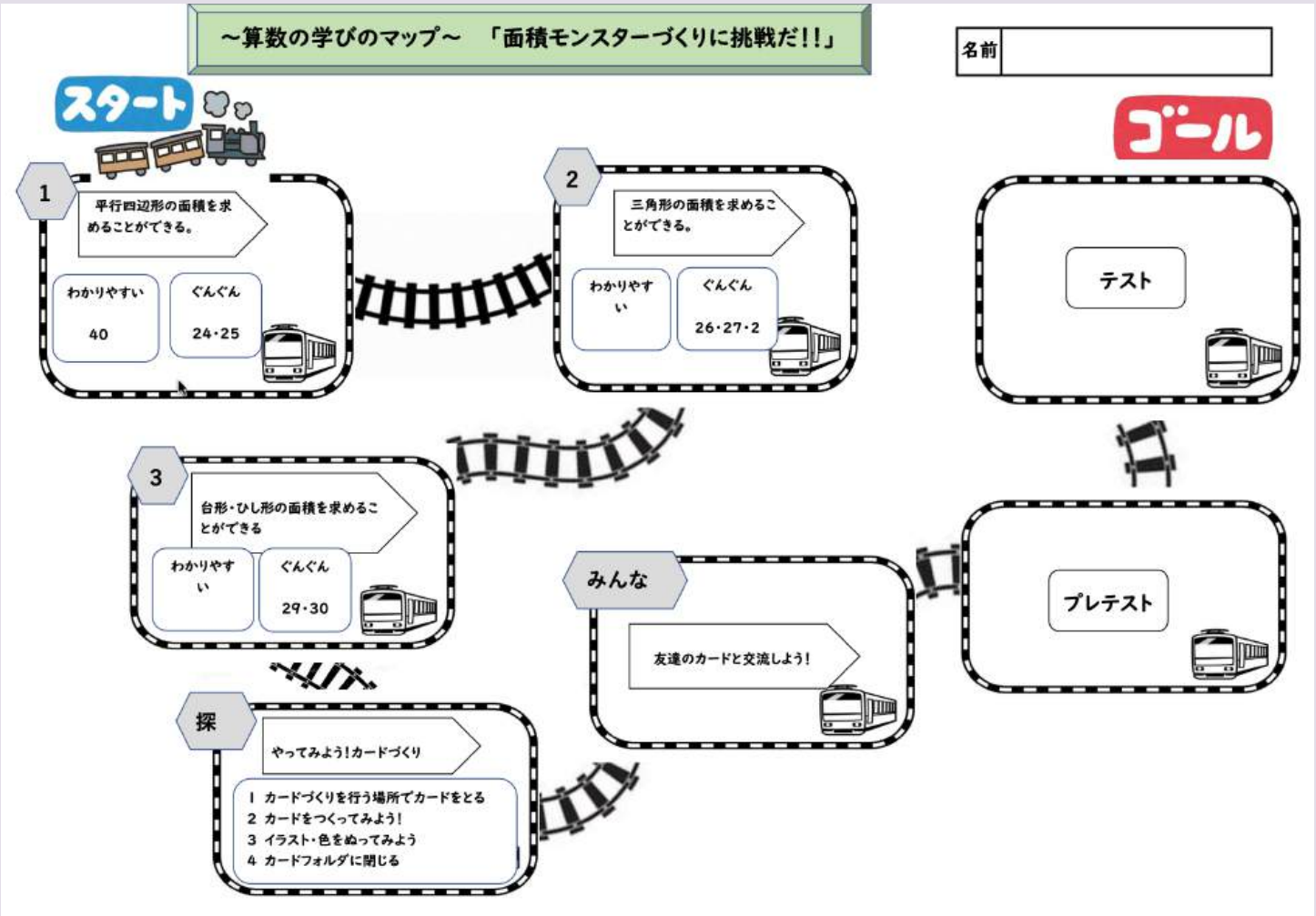
「今日の学びについて、自分自身でどう感じましたか？」とインタビューされました。あなたは密着取材の映像を見ながら、自分で今日の学びをどう評価するか、具体的に振り返ってみましょう。

自由進度学習では、単元進度表が共有されます。授業の進め方を先生だけでなく子どもたちも知っていることが大事。これが学びの地図になります。大きな模造紙に書いて貼り出したり、プリントを各自が保管したり、ICTで共有したりします。

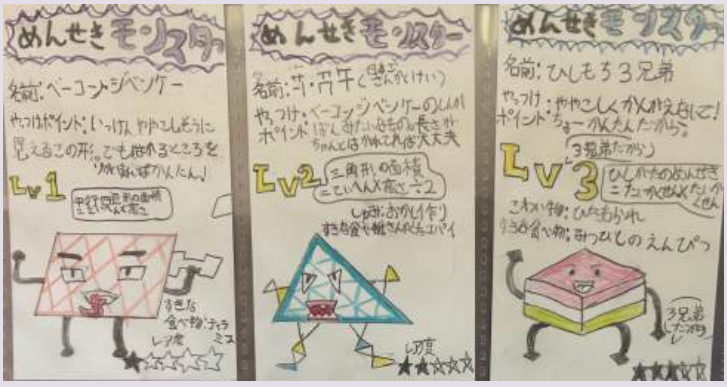
3 学びの地図「単元進度表」の例２　算数

＜はじまりのインストラクション＞

私たちは、面積モンスターがたくさんいる島に迷い込みました。この島には平行四辺形、三角形、台形、ひし形の形をしたモンスターがいます。このモンスターは公式の意味を説明することができれば倒すことができます。問題を解きながら、面積を求める公式とその意味を説明するカードを作成していこう。



右の写真のように問題を解きながらカードに面積の公式の意味を説明します。カードにまとめることで、算数の見方・考え方についての学びが進みます。



参考：「自律した学習者を育てる算数授業のカード実践」（樋口萬太郎・東洋館出版社）カードを活用した算数の見方・考え方を育む学習方法

4 学びの地図「単元進度表」の例３ 家庭科

＜はじまりのインストラクション＞

　今日からミシンでトートバックの制作をします。今までのミシンの使い方がここに書いてあるので、つくっていけるといいですよね。右上に書いてあるURLをクリックすると、トートバッグの作り方の動画があります。それを見ながらつくってみましょう！



５年生でならったミシンの使い方を思い出そう　https://www.aob.

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
ミシンを安全に運ぶ	電源を入れる	ミシン針をセットする	ボビンをセットする	下糸をセットする	上糸をセットする	直線ぬいをする	返しぬいをする	ミシン針を外す	ミシンを安全にしまう

トートバッグ製作をしよう

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
しるしをつける	まち針でとめる	わきをぬう	出し入れ口をぬう	底にマチを作る	持ち手をまち針でとめる	持ち手をぬう	必要なマークやアップリケをつける	出来上がりを写真にとる

◎　毎時間の振り返りを書こう

月　日（　）	今日のめあて	ふりかえり（できたこと・できなかったこと・次回やりたいこと）	めあてに対してどうだったか（◎・○・△）

　以前、つくった人たちはトートバックが完成した時に、とても感動していました。「まさか、自分でつくれるなんて」と。できたトートバックを音楽バックにしたりして、とても喜んで使っていました。自分でつくったバッグが手元にあるのは、本当に嬉しいものです。

　注意するのは、縫う場所の布の長さです。

　ぬいしろに気をつけて、縦と横の長さを間違わずにつくっていきましょう。

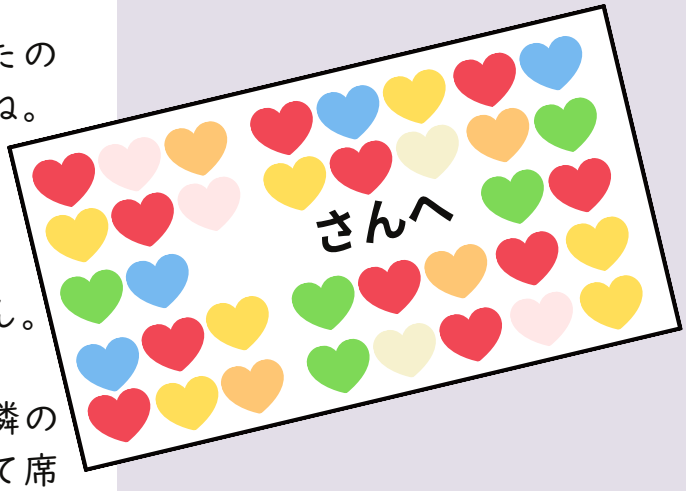
家庭科や図工などの実技の自由進度学習では、パソコンで視聴できる動画もあり、自分のペースで何度でも見返せます。単元進度表を見ながら、自分の進み具合をチェックできます。わからないところも、自分で考えながらじっくり学べます。

5 温かい関係をつくろう

みなさんのクラスは何人ですか。
日本では、ほぼ同じ広さの教室に数人のクラスもあれば、40人くらいのクラスもあります。クラスと言っても様々です。

そして最初にも説明した通り、私たちは一人ひとりがちがう存在です。同じものを見ても感じ方も様々です。クラスには気が合う人もいれば、苦手な人もいるかもしれません。

でも、ご縁があって同じクラスになったのだから、いい友達になれるといいですよね。いいクラスになった方がいい。だとすると、そのための工夫が必要です。みなさんのクラスには、どんな工夫がありますか。何もしないと温かい関係にはなません。



例えば、週に１回席替えをして全員と隣の席になるように工夫したり、目的によって席を変えたり、総当たりでじゃんけん大会をしたり、全員でサークルになって対話をしたり、本をペアやグループで読んだり。いろんな工夫をして私たちはお互いを知り、友達になり、クラスとして成長します。

自由進度学習は、温かい関係があるとうまく進みやすくなります。そして、自由進度学習を通して、小さなクラスも大勢のクラスもさらに温かい関係をつくっていけます。

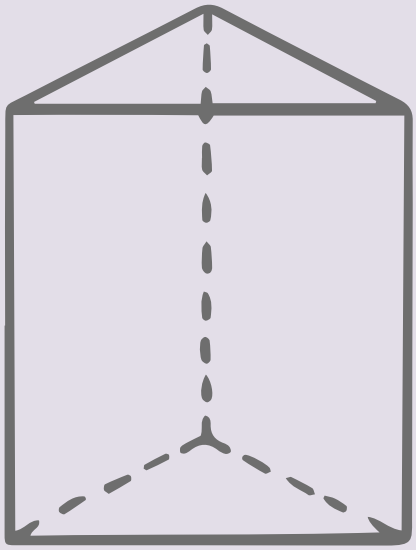
おすすめ！「ハートカードプロジェクト」。準備するのはクラス名簿と人数分のハートの紙。１週間、友達をじっくり観察して「〇〇さんへ　体育の時に大きな声で応援してくれてありがとう。△△より」などのメッセージを送り合います。もらったカードは大きな画用紙に全員分を貼り付けます。

6 先生の役割はファシリテーター

ファシリテーターという言葉を聞いたことがありますか。ファシリテーターはみんなでゴールに向かえるように伴走する役割です。

目標や計画がうまく進めるように観察し、具体的な手立ての提案やアドバイスをして気づきを促します。例えば、こんな感じです。

三角柱の体積を求める計算にチャレンジする子がいました。でも、どうしても進め方がわかりません。困っているうちに、だんだんとやる気がなくなってきました。その様子を先生は後ろから見ていました。三角柱の体積を求めるには、以下のプロセスが必要です。



□１ 九九を順番に言える
□２ ランダムに九九を言える
□３ 面積って何かを知っている
□４ 三角形の面積を求める公式を知っている
□５ 公式を使って面積を計算できる
□６ いろんな三角形の面積を計算できる
□７ 体積って何かを知っている
□８ 三角柱の体積を求める公式を知っている
□９ 公式を使って体積を計算できる
□10 いろんな三角柱の体積を計算できる

先生はいくつか質問をして、わからない原因が一緒に突き止めました。そして、できていること（＝強み）を確認してから、次のチャレンジを投げかけ、近くにいた子に「〇〇さんと一緒にやらない？」と声をかけました。そしていつの間にかいなくなりました。

先生がファシリテーターだと教室に対話があふれます。そして、子どもたちがファシリテーターだとクラスのだれとでも対話や議論ができるようになります。対立が起こった時も、子どもだけの力で解決へと向かえます。先生も子どもたちもファシリテーターの練習をしよう！

1 自由進度学習で学んだ先輩の声に学ぼう

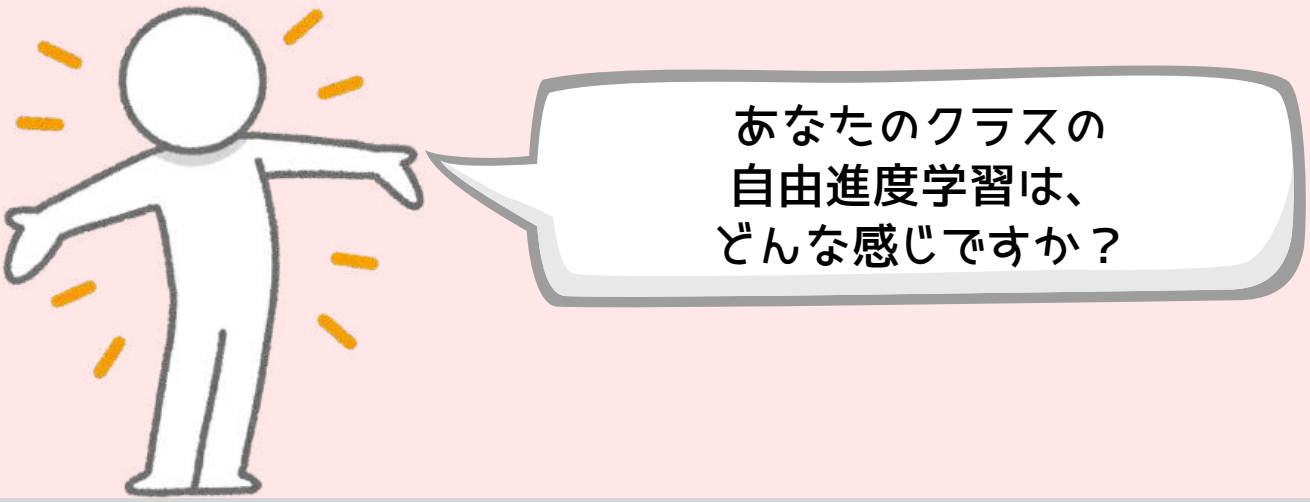


友達と一緒なら頑張れる
自分ひとりだけで進めるのは楽しい

自由進度学習は「自分で考えて、計画したことにじっくり取り組めるところ」が好きです。調べたいと思ったことがすぐに調べられる。やってみたいと思ったことをすぐにやってみることができる時間なのが楽しかったです。

私はそもそも勉強自体好きじゃなかったけど、友達と一緒なら頑張れるってわかりました。友達と時間を決めて、１０分間、情報を集めようって教科書を見るのが楽しかったです。ひとりだと１分も教科書は読めないけど、友達と頑張るなら３０分でも出来ました。

自由進度学習は自分のペースで進められるし、自分ひとりだけで進めるというのは楽しいです。特に社会科は一番好きな授業でした。



自由進度学習に取り組むと、一人ひとりの学びの現在地がわかります。でも、特に最初の１単元目は、先生も子どもたちも「目標や計画の立て方が難しい」「学習方法や具体的な手立てがわからい」と悩みます。でも、だんだんと学習方法に慣れてくると効果が見え始めます。

2 はじめの一歩は算数がおすすめです

算数は、掛け算や割り算、図形の問題など、いろんなことを学びますよね。でも、みんな同じペースで進むわけではなく、それぞれが得意なところから始めることができるのが自由進度学習です。例えば、掛け算は得意だけど分数は苦手、そんなときは分数から始めてもOK！得意なところは少し休んで、苦手なところをじっくり学ぶことができます。

また、自由進度学習では、わからないところを何度でも繰り返し学べます。例えば、「この掛け算のやり方をもう一回見たい！」と思ったとき、動画で何度も確認できるんです。自分のペースで進められるので、焦らず、じっくり学べるのが嬉しいですよね。
もし、わからないことがあったら、先生に質問することもできます。迷わずに進んでいけますよ。

家庭でもできる学習方法があるので、家でも自由進度学習を活用できます！例えば、家に帰ったら、宿題の前に好きな算数の問題集をやってみるといいですよ。難しい問題があったら、インターネットで動画を検索して、自分のペースで学ぶことができます。おうちの人と一緒にやって、わからないところを説明してもらうのも良い方法です。算数が苦手でも、少しずつ進んでいくことで、どんどん自信がついてきます。算数を得意にしよう！



学習進度がわからないときは、まず教科書を見てみましょう。教科書には、進むべき内容が順番に書かれているので、進度を確認できます。また、教科書会社の年間計画を参考にすれば、全体の進行具合も把握できます。

3 毎日読書を楽しもう

読書は「知識の宝庫」です。

「情報」ではなく「知識」なのです。「知識」はみなさんの人生の「選択肢」となる貴重な財産です。誰にも奪われることがありませんし、何度使っても減らない財産であるのが特徴です。

具体的な話をしましょう。

知っていることが多いほど、物事をいろんな角度から見れるようになります。例えば「リンゴ」を見たときに、「あ、リンゴだ！」と思えることも、知識がある状態だと言えますよね。しかし、知識がたくさんある人、多くの人の言葉を読書を通して得てきた人は、それ以外の見方をすることができます。さて、どんな見方があるでしょうか？少し考えてみましょう。



読書の良さをもう一つだけ伝えます。読書はあなたの「器の大きさ」も育てます。あなたがリンゴが大好きだとしましょう。そこに「私、リンゴが嫌いなんだよね。」という友人が現れたら「えっ！？なんで？美味しいのに！！」と思うでしょう。しかし、読書をして「いろんな人の知識」を得ている人は、そうは思わないのです。

なぜなら、自分以外の人の人生や、物の見方をたくさん知っているからです。
まだまだ語り尽くせないくらい、「読書」の良さはありますが、ここから先の「良さ」はあなた自身で体験してみてください。

読書も、立派な学習です。国語の自由進度学習で、教科書に紹介されている本を読みましたか？社会の自由進度学習で、歴史漫画を全巻読んでみましたか？学校図書館という「知識の宝の山」を活用できているかな？本があなたを待っています。

4 自由進度学習×ICTは相性がいい！

動画で何度でも学べます！

　授業で説明を聞いても、「あれ？もう一回聞きたいな…」と思うことはありませんか？ICTを使えば、先生が用意した動画を何回でも見ることができます。例えば、家庭科の授業でミシンの使い方を学ぶとき、えっと…糸はどこに通すんだっけ？」と迷った時も、動画を見れば、最初から確認できるので安心です！

自分の進み具合がすぐにわかります！

「次はどこをやればいいのかな？」と迷うこともありますよね。でも、タブレットやパソコンで自分の進み具合を確認することができます。例えば、プログラミングの学習をするとき、「ステップ3まではできたけど、ステップ4はまだだった！」と、すぐに把握できます。先の見通しが立つと、「よし、次もがんばろう！」という気持ちになりますね。



好きなタイミングで先生に質問できます！

　授業中、先生がほかの人の質問に答えているとき、「今、先生に聞きたいけど、話しかけにくいな…」と思うことはありませんか？ICTを使えば、チャットやコメント機能を使って、先生に質問を送ることができます。例えば、家庭科でレシピを考えるとき、「この食材を変えても大丈夫ですか？」と迷ったら、チャットで先生に聞くことで、先生が気づいたときに返信してくれます。すぐに答えが返ってこなくても、質問を残せるので安心ですね！

　こんなふうにICTを使えば、自分に合ったペースで学べるので、自由進度学習がもっと楽しくなります！

ICTを使う時には
① インターネットには間違った情報もあります。信頼できるサイトや資料を選びましょう。
② チャットやコメントでは相手が嫌な気持ちにならない思いやりのある言葉を選ぶことが大切です。
③ 時間を決めて使おう！ICTは便利ですが長時間使いすぎないように自分でルールを決めましょう。

5 ホワイトボード・ミーティング®でファシリテーターになろう！

　ホワイトボード・ミーティング®は2003年に開発された話し合いの方法です。進行役をファシリテーター、参加者をサイドワーカーと呼びます。ファシリテーターが参加者の意見をホワイトボードに書くので、話し合いがわかりやすい。みんなの意見で難しい問題の解決や新しい発見が進みます。

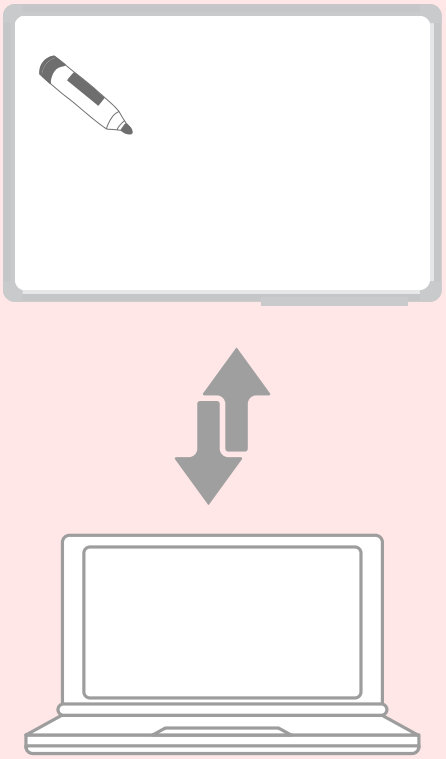
　方法はシンプルです。

　ファシリテーターは「好意的な関心の態度」でみんなの意見を順番に聞いて、ホワイトボードに書きます。「ホワイトボード・ミーティング®質問の技カード」を使って、意見を広げたり、深めたりします。「なるほど、なるほど」がいっぱいです。ホワイトボードに色をわけて書くことが特ちょうです。

●発散：意見をどんどん出す（広げて深める）
●収束：意見をまとめる
●活用：結論や役割を決める

　書くのが得意な人も、苦手な人も、みんなが交代でファシリテーターをします。ファシリテーションは技術なので、練習をすればするほど上手になります。小学校１年生も、大人も同じ方法で練習します。大人になっても役に立つ話し合いの方法です。
　タブレットやパソコンのスライドシート（白い紙）をホワイトボードに見立てて、話し合いを進めることもおすすめです。

みんなでワイワイ話し合うのは楽しい



パソコンで話し合う
ホワイトボード・ミーティング®もおすすめ！

ホワイトボード・ミーティング®は子どもから大人まで世代をこえて話し合いが進む技術です。「ホワイトボード・ミーティング®質問の技カード」を学校の授業で使う場合は、右側のQRコードからダウンロードできます。

6 やってみよう！サークル対話（イエナプラン教育）

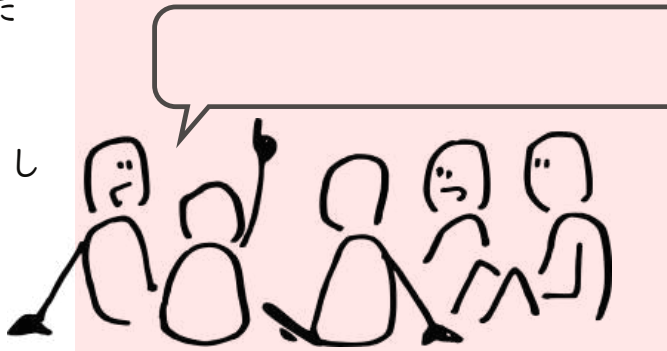
イエナプラン教育では、対話が最も大切とされています。その取り組みのひとつに「サークル対話」があります。

サークル対話では、クラスのみんなでひとつの輪になって対話を行います。目的は、一人ひとりが尊重され、グループに貢献できるようになることです。たくさん発言することが目的ではなく、他者の発言に耳を傾け、受け止めることを大事にしています。嬉しいことを一緒に喜び合ったり、互いの 悩みを解決し合ったりします。

サークル対話は、自由進度学習で起きる良いことや問題点を一緒に考える機会となります。クラスでサークル対話を行う文化があると、自由進度学習が豊かになります。例えば、

・今の自由進度学習は何がうまくいっている？何がうまくいっていない？
・どんな環境が学びやすいかな？
・今回の単元の課題は、今のペースで間に合いそうかな？
・自分たちにとって学びやすい単元進度表はどんな感じ？
・もっと先生に教えてもらいたい？もっと自分たちで教え合いたい？

自由進度学習で起きる課題もサークル対話をしながら、みんなで乗り越えていきます。



サークル対話は、朝の会や帰りの会の時に１０分から１５分の時間をつくって行うことをおすすめします。子どもたちとサークルで対話を積み重ねて自由進度学習をつくっていきましょう。

参考文献など

先生たちは、こんな本を参考にして進めているよ。読んでみてね。

「個別最適な学びの足場を組む。』（奈須正裕　教育開発研究所）
　ー個別最適な学びを実現するための具体的な方法や指導の工夫について詳しく解説されています
「教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方』（竹内淑子　黎明書房）
　ー自由進度学習の基本的な考え方や具体的な進め方について解説されています
「よくわかる学級ファシリテーション③授業編」（岩瀬直樹・ちょんせいこ　解放出版社）
　ー子どもたちが学びのコントローラーをもって学び合う。授業の進め方の様子や方法が紹介されています
「子どもが自ら学び出す！ 自由進度学習のはじめかた』（蓑手章吾著、学陽書房）
　ー授業の最初10分を全体指導。残りを自分のペースで学習を進める「自由進度学習」の実践方法が解説されています
「超具体！自由進度学習はじめの１歩』（難波駿著、東洋館出版）
　ー自由進度学習を始めるにあたっての「具体的実践例」が１２本掲載されています。５分から始められる実践もあります
「学び方を学ぶ授業』（難波駿著、東洋館出版）
　ー子どもたちに学びの主導権を委ね「よりよく」を探究する共通言語となりうる本です。７つの観点で学び方を捉えます
「イエナプラン教育を取り入れた自由進度学習　クラスでトライしてみる「ブロックアワー」』（岩本歩著、明治図書）
　ー日本の公立学校で行う自由進度学習の方法について、イエナプラン教育の考え方を大事にして行った実践が書かれています
「よくわかる学級ファシリテション②こどもホワイトボード・ミーティング編」（岩瀬直樹・ちょんせいこ　解放出版社）
　ー小学校のクラスで子どもたちがファシリテーターになって話し合う方法が描かれています
「自律した学習者を育てる算数授業のカード実践』（樋口万太郎著、東洋館出版社）
　ーカードを作成しながら、算数の見方・考え方を共通言語に実践を進める実践についてが紹介されている本です
「増補改訂版『振り返りジャーナル』で子どもとつながるクラス運営」（岩瀬直樹・ちょんせいこ　学事出版 ）
　ー成功も失敗もどちらも学びの糧になる。そのポイントは「振り返り」。振り返りのサイクルをまわす具体的な方法を紹介
「対話で学びを深める国語ファシリテーション」（石川晋・ちょんせいこ　フォーラムA）
　ー国語の授業におけるファシリテーションを説明。作品理解が進む音読や自由進度で進める国語の授業の進め方も紹介

この冊子を作成した人

2025年3月15日発行

難波　駿　　（北海道札幌市公立小学校教員）
土信田幸江　（埼玉県公立小学校教員）
岩本　歩　　（茂来学園　大日向小学校教員）
ちょんせいこ（ファシリテーター・株式会社ひとまち代表）

最初に土信田さんが、難波さんとちょんさんが出会うきっかけをつくってくれてオンラインで３人で話を始めました。その後、岩本さんがジョインしました。2025年3月15日にオンラインで自由進度学習についての学習会を開催し、この冊子はその時に配付されました。この冊子はフリーペーパーです。学校で自由にお使いください。

世界中の学校の先生（授業者）や子ども（学習者）、保護者や地域の方などにこれが届いて、より多くの方々のお役に立てれば嬉しいです。みんなでアップデートして平和で幸せな社会づくりが進みますように！

（2025年3月18日更新）